

おおいた地域連携プラットフォーム
おおいた地域高等教育活性化中長期計画 2018

～人生 100 年時代を見据えたライフステージの各段階を支える
地（知）のプラットフォームを目指して～

2018 年度～2022 年度

※本改定は 2021（令和 3）年 4 月 1 日に『大学等による「おおいた創生」推進協議会』及び『大分高等教育協議会』が発展的統合し、『おおいた地域連携プラットフォーム』となったことから、『大学等による「おおいた創生」推進協議会』の「おおいた地域高等教育活性化中長期計画 2018」を引き継ぎ、改訂を行うものである。

2018（平成 30）年 9 月 28 日

（2021 年（令和 3）年 10 月 29 日改訂）

◎基本的な考え方

1. 計画策定の趣旨

少子高齢化が進み、全国的かつ本格的な人口減少社会を迎える中、国・地方にとっても地方創生が大きな課題となっています。また、グローバル化の進展と相まって、地方を取り巻く環境は近年、大きく変化しています。

高等教育機関を取り巻く環境に目を向けると、地域社会の衰退への懸念が高まる中、人生100年時代への対応やグローバル社会において地域が持続的に発展していくため、地（知）の拠点としての高等教育機関への期待がますます高まっています。一方で、18歳人口の急激な減少や東京一極集中が緩和されない状況が続いており、地域内における高等教育機関のさらなる魅力創出、全体のボトムアップが急務です。

以上のことから、おおいた地域における知の基盤としての高等教育機関の役割を明確化し、地域内における高等教育機関の特徴や強みを踏まえた連携の推進を目指し、おおいた地域の高等教育全体の活性化を図る中長期計画を策定します。

2. 計画の性格・役割

この計画は、「おおいた地域連携プラットフォーム」（以下、「本プラットフォーム」という。）で構成される大学、短大及び高専（以下、「大学等」という。）が地方公共団体、経済団体、関係団体、企業等と協働及び連携の上、地域における大学等の特徴や強みを踏まえ、大学等連携による地域の高等教育の活性化に向けた長期的、総合的な指針を示したものであり、本プラットフォームの構成機関が目指すべき目標を共有し、その実現に向けてともに努力する内容を明らかにするものです。

3. 計画の期間

計画の期間は、2018年度を初年度とし、2022年度までの5年間とします。

4. 計画の構成

この計画は、基本構想編と基本計画編の2部構成となっています。

基本構想編では、おおいた地域の高等教育機関を取り巻く現状と課題を踏まえ、おおいた地域の高等教育機関が目指す「基本目標」を明らかにしており、基本計画編では、課題ごとの「これからの基本方向」「具体的な取組」「主管機関」「目標指標」を示しています。

【基本構想編】

◎現状と課題

- ・ 大分県は九州で最も少子高齢化が進行している県であり、少子高齢化に起因する多様な課題を抱えています。そのため、県内の大学等高等教育機関は“おおいた”の「知（地）の拠点」として、以下の課題に対応することが求められています。
 - ① 県内自治体・産業界等と大学等の連携の促進
 - ② 新しい学力観である「学力の3要素」の定着を図る高大接続の実質化
 - ③ 高等教育機関進学率の向上
 - ④ 学生の確保等による若年者の人口流出抑制
 - ⑤ 産学官連携による地域創生人材の育成と質保証
 - ⑥ 大学等連携による地域に密着した科目の充実
 - ⑦ 県内短期大学進学率の高さに応える短期大学の振興
 - ⑧ 人口減少の観点からの県内就職の促進
 - ⑨ 多様なニーズに応える社会人の学び直し機会（リカレント教育）の提供
 - ⑩ 産学官連携による産業、福祉、医療等、様々な分野の課題解決による地域活性化の推進

◎ビジョン・基本目標

“人生100年時代を見据えたライフステージの各段階を支えるおおいた地域の地（知）のプラットフォームの実現”

構成団体と連携して、教育や産業の振興、医療・福祉の充実、地域活性化など多様な地域課題に対応し、大学等が持つ研究開発機能やシンクタンク機能、さらには学生の活力を活用できる人生100年時代にふさわしい地域の高等教育機関を実現します。

このような観点から、4つの基本目標を設定します。

- ① 高大接続の実質化による中等教育支援と高等教育機関進学率の推進
- ② 産学官連携による地域の高等教育の質向上と地域創生人材の育成
- ③ 産学官連携による県内就職の促進
- ④ 地域を対象とした教育研究による産業・地域活性化の推進と社会人の学び直し支援

以上のビジョン・基本目標の実現を目指し、総合的な達成度を測る目標指標として、「課題①：県内自治体・産業界等と大学等の連携の促進」に対応して以下を設定します。

指標名	基準値 (2016年度)	目標値 (2022年度)
大分県と構成大学等との連携事業数	122件	180件
事業参加機関の満足度（アウトカム指標）	—	80%

※事業参加機関の満足度は当該年度に大学等と協働活動が実際に行われた機関を対象に算出

◎組織体制図



本計画における事業推進本部会議、各部会、協働事務局の役割、基本目標、課題との関係は以下の通りです。なお、本計画の取り組みの実施にあたっては、必要に応じて各部会の下にワーキンググループを設置し、これがあたるものとします。

■事業推進本部会議

- 本計画の推進管理
- 本地域における高等教育のグランドデザインについての継続的な議論

■地域交流・課題検討部会

- 「基本目標④：地域を対象とした教育研究による産業・地域活性化の推進と社会人の学び直し支援」のうち、地域を対象とした教育研究による産業・地域活性化の推進に関する統括
- 「課題①：県内自治体・産業界等と大学等の連携の促進」「課題⑩：産学官連携による産業、福祉、医療等、様々な分野の課題解決による地域活性化の推進」に対応する取り組みの実施

■教育プログラム開発部会

- 「基本目標②：産学官連携による地域の高等教育の質向上と地域創生人材の育成」の統括
- 「課題⑤：産学官連携による地域創生人材の育成と質保証」「課題⑥：大学等連携による地域に

密着した科目の充実」「課題⑦：県内短期大学進学率の高さに応える短期大学の振興」に対応する取り組みの実施

■地域人材創出部会

- 「基本目標①：高大接続の実質化による中等教育支援と高等教育機関進学への推進」「基本目標③：産学官連携による県内就職の促進」の統括。「基本目標④：地域を対象とした教育研究による産業・地域活性化の推進と社会人の学び直し支援」のうち、社会人の学び直し支援の統括
- 「課題②：新しい学力観である「学力の3要素」の定着を図る高大接続の実質化」「課題③：高等教育機関への進学率向上」「課題④：学生の確保等による若年者の人口流出抑制」「課題⑧：人口減少の観点からの県内就職の促進」「課題⑨：多様なニーズに応える社会人の学び直し機会（リカレント教育）の提供」に対応する取り組みの実施

■協働事務局

- 本計画の推進にかかる事務及び調整

【基本計画編】

◎基本目標 1：高大接続の実質化による中等教育支援と高等教育機関進学 の推進

1. これからの基本方向

- 仕事人生の長期化と、科学・技術の革新的な進歩がもたらす社会構造の絶え間ない変化の中で新しい価値を生み出し続けるために、生涯にわたって「学び続ける力」が求められています。「学力の3要素」の育成は、そのために不可欠です。このような中、将来の大分県に必要な人材育成のあり方を教育機関に関わる関係者が共有、実践できる環境を整えます。
- 人口減少社会、グローバル社会においては、高等教育を受けることによる人材の高度化が求められており、県内大学等が教育委員会、中学・高校、自治体、企業等と連携して、中高校生及びその保護者が大学等への進学を含めた多様なキャリアパスを想像、実現できる環境を整えます。

2. 具体的な取組

- 中分類1-1：「学力の3要素」を中核に据えた高大接続のあり方検討
 - 「学力の3要素」教育に向けた高大接続のあり方に関する協議・取り組み・高等学校等との連携（ニーズ調査等を含む）
 - 「主体的・対話的で深い学び」の促進に寄与する高等学校等との連携
 - 高等学校の教育的課題に対する高等学校等との連携
- 中分類1-2：進学率向上に向けた取り組み
 - 女子中高生の進路選択支援プログラムの実施（理系、資格等の分野や学校種を念頭に実施）
 - 社会へのトランジションを踏まえた高校生のキャリア教育支援（体験学習の提供を含む）
- 中分類1-3：県内進学促進に向けた取り組み
 - 県内高校生への進学情報の一元提供（進学ガイドブック、オープンキャンパスガイド等の作成、配付）
 - 合同進学説明会・意見交換会等の実施

3. 主管機関

- 中分類1-1：日本文理大学（主）、大分大学（副）
- 中分類1-2：日本文理大学（主）、大分大学（副）、別府溝部学園短期大学（副）、大分工業高等専門学校（副）
- 中分類1-3：日本文理大学（主）、大分大学（副）

4. 目標指標

中分類	課題番号	指標名	基準値 (2017年度)	目標値 (2022年度)
1-1	②	高大接続検討会議の開催実績	1回/年	3回/年
1-2	③	中高生向け教育支援プログラムの開催実績	6回/年	15回/年
1-3	④	合同進学説明・意見交換会等の開催実績	0回/年 (2018年度)	4回/年
		県内高校生の県内大学等への関心度(アウトカム指標)	ベンチマーク調査 (2019年度)	+10ポイント

※ ④のアウトカム指標は本プラットフォーム作成の進学情報資料（オープンキャンパスガイド等）がオープンキャンパス等の参加に寄与したと答えた生徒の割合で算出

◎基本目標 2：産学官連携による地域の高等教育の質向上と地域創生人材の育成

1. これからの基本方向

- 地域の持続的発展のため、大学等高等教育機関には、次世代の地域のリーダーとなる人材の育成、輩出が期待されています。大学等が自治体や企業等と密接な連携を取り、地域に密着したカリキュラムや学生等が地域と協働して行うフィールドワーク等の充実、教育力の向上を通じて、多様な地域で通用する人材を育成する環境を整えます。
- 県内の高校生の短期大学進学率は、全国の都道府県の中でも最上位に位置づけられる高さです。今後もこのニーズに持続的に応えるため、短期大学においては短い期間で高等教育が受けられるメリットを最大限に生かしつつ、「おんせん県おおいた」といった特徴を持つ本県で活躍できる人材育成の取り組みを充実します。

2. 具体的な取組

- 中分類 2-1：「大分を創る人材を育成する科目」を通じた人材育成の高度化
 - 「大分を創る人材を育成する科目」の開発と授業実施
 - 合同教職員研修（FD/SD）事業の推進
 - おおいた共創士認証制度の推進
- 中分類 2-2：「大分を創る人材を育成する科目」の運用体制の確立
 - 単位互換科目、協働開発科目の推進
- 中分類 2-3：短期大学の特性を生かした教育の充実
 - 地域の課題解決を通じた教育の推進
 - 「おんせん県おおいた」を支える人材育成活動の推進

3. 主管機関

- 中分類 2-1：大分大学（主）、日本文理大学（副）
- 中分類 2-2：大分大学（主）、日本文理大学（副）
- 中分類 2-3：別府溝部学園短期大学（主）

4. 目標指標

中分類	課題 番号	指 標 名	基準値 (2017 年度)	目標値 (2022 年度)
2-1	⑤	合同 FD/SD 研修会の開催実績	4 回/年	5 回/年
		おおいた共創士の認定者数	—	150 人/年
2-2	⑥	単位互換科目受講者数	72 人/年	100 人/年
2-3	⑦	当該教育プログラムの開催実績	1 回/年	2 回/年

◎基本目標 3：産学官連携による県内就職の促進

1. これからの基本方向

- 本県においても、『人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる』という負のスパイラルに陥ることが危惧されています。地方の人口減少を克服していくためには、意欲と能力のある若者が地域において活躍できる場の創出等に取り組む必要があります。産学官の連携をさらに進め、意欲と能力のある学生が県内企業等とマッチングできる機会や県内就職をしやすい環境を整えます。これらのマッチングは、就職直前の就職支援活動に限らず、大学4年間を通じて地域企業や自治体等と触れ合う場とします。

2. 具体的な取組

- 中分類 3-1：県内就職率向上事業
 - 県内企業と学生のマッチング事業（インターンシップフェア、県内業界研究セミナー等）の推進
 - おおいた共創士認証制度の推進

3. 主管機関

- 中分類 3-1：大分大学（主）、日本文理大学（副）

4. 目標指標

中分類	課題番号	指標名	基準値 (2017年度)	目標値 (2022年度)
3-1	⑧	インターンシップ参加者数	72人/年	200人/年

◎基本目標 4：地域を対象とした教育研究による産業・地域活性化の推進と社会人の学び直し支援

1. これからの基本方向

- 今後は生産年齢人口の急激な減少や過疎化、小規模集落の増加等が進むことから、高齢者や女性など多様な人材の社会参加を一層促す必要があります。また、人生 100 年時代を迎え、高齢者から若者まで、全ての世代に活躍の場があり、全ての人が元気に活躍し続けられる社会、安心して暮らすことのできる社会をつくることが期待されています。知の拠点である高等教育機関として、生涯を通じて切れ目なく、質の高い教育を用意し、いつでも有用なスキルや知識、必要な能力を身に付けられる学び直しの場を提供、充実させます。
- 教育や産業の振興、医療・福祉の充実、地域活性化など多様な地域課題に対応するため、大学等が持つ研究開発機能やシンクタンク機能を最大限に発揮できる体制の構築と産学官による取り組みの充実を図ります。

2. 具体的な取組

- 中分類 4-1：多様なニーズに応えるリカレント教育の推進
 - サテライトキャンパス等における講座の提供
 - 県内産業の創出を目的とした履修証明制度の開発、実施（ニーズ調査等を含む）
 - 人材ネットワーク化事業の推進
 - 保育士・栄養士等の再教育の推進（短期大学）
- 中分類 4-2：地域活性化を学術的に支える研究の推進
 - 教育・医療・福祉施設の使われ方研究と新規的提案の取り組み
 - 大分県内の魅力ある風景（空間）の教育資産としての可能性に関する調査・研究
 - 県民定住・県内移住促進事業の学術的アプローチの取り組み
 - その他地域活性化につながる大学等連携による研究等

3. 主管機関

- 中分類 4-1：日本文理大学（主）、立命館アジア太平洋大学（副）、別府溝部学園短期大学（副）
- 中分類 4-2：大分大学（主）、日本文理大学（副）、別府溝部学園短期大学（副）

4. 目標指標

中分類	課題番号	指標名	基準値 (2017年度)	目標値 (2022年度)
4-1	⑨	リカレント教育の受講者数	—	50人
4-2	⑩	新たに開始した産学官連携研究の累積実施件数	—	5件

◎具体的なロードマップ

本計画の推進に関して、5か年にわたる具体的なロードマップは以下の表のとおりです。なお、各年度における項目は、社会的状況や事業全体の進捗状況、本プラットフォームに参画する大学等、地方公共団体・国機関等、地域経済団体・関係団体・連携企業等の増減状況や協議により、変更することがあり得ます。また、PDCA サイクルをまわすことで、必要に応じて、随時内容を見直していきます。

年度	項目
2018年度	<ul style="list-style-type: none">・中長期計画の策定・承認と、中長期計画に基づく2年目以降の具体的な事業計画の検討・WEBページの開設と中長期計画の公開・各部会の役割分担の再確認・大分地域のさらなる情報収集と分析・各事業の遂行・連携機関との協議・調整・年間評価 等
2019年度	<ul style="list-style-type: none">・各事業の遂行・連携機関との協議・調整・年間評価 等
2020年度	<ul style="list-style-type: none">・各事業の遂行・目標指標の達成状況の中間確認・中長期計画の点検・評価・改定 等
2021年度	<ul style="list-style-type: none">・各事業の遂行・連携機関との協議・調整・年間評価 等
2022年度	<ul style="list-style-type: none">・中長期計画の自己点検評価・外部評価・目標指標の達成状況の確認・次期へ向けた事業展開の検討 等

【付 録】

(1) 構成組織

①高等教育機関（大学・短期大学・高等専門学校）

大分大学、大分県立看護科学大学、日本文理大学、別府大学、大分県立芸術文化短期大学、大分工業高等専門学校、別府大学短期大学部、別府溝部学園短期大学、立命館アジア太平洋大学、大分短期大学、東九州短期大学、放送大学大分学習センター

②地方公共団体・国機関等

大分県、大分市、別府市、由布市、中津市、豊後高田市、宇佐市、日田市、竹田市、津久見市、豊後大野市、佐伯市、杵築市、臼杵市、国東市、玖珠町、九重町、日出町、姫島村、大分労働局、大分県教育委員会

③地域経済団体・関係団体・連携企業等

大分県商工会議所連合会、大分県商工会連合会、大分中小企業団体中央会、大分県経営者協会、大分経済同友会、大分県中小企業家同友会、（公財）大分県産業創造機構、（有）大分合同新聞社、（株）大分銀行、大分信用金庫、大分みらい信用金庫、三和酒類（株）、（株）トキハ、日本政策金融公庫大分支店、（株）豊和銀行、（株）オーイーシー、大分交通（株）、（株）オーシー、社会福祉法人新友会、（株）地域科学研究所、（株）豊後企画集団、柳井電機工業（株）、大分県信用組合、東京海上日動火災保険（株）大分支店、九州電力（株）大分支店

(2) 大分県 高等教育機関 学術分野マップ (2021 年度版)

区分	大学名	所在地	系・分野		
			人文・社会系	理工・情報系	生物・医看系
国立大学	大分大学	大分市 由布市	○ 教育学部 (初等中等教育系、特別 支援教育系) 経済学部 (経済学系、経営システム 学系、地域システム学系、 社会イノベーション学系) 福祉健康科学部 (社会福祉実践系、心理 学系)	○ 理工学部 (創成工学(機械系、電気 電子系、福祉メカトロニク ス系、建築学系)、共創理 工学(数理科学系、知能 情報システム系、自然科 学系、応用化学系))	○ 医学部 (医学系、看護学系) 福祉健康科学部 (理学療法系)
公立大学	大分県立看護科学大学	大分市			○ 看護学部 (看護学系)
私立大学	日本文理大学	大分市	○ 経営経済学部 (地域マネジメント系、ビジ ネスソリューション系、会 計ファイナンス系、スポー ツビジネス系、こども・福 祉マネジメント系)	○ 工学部 (建築学系、情報メディア 学系、機械電気工学系、 航空宇宙工学系)	
私立大学	別府大学	別府市	○ 文学部 (国際言語・文化学系、史 学・文化財学系、人間関 係学系) 国際経営学部 (国際経営系、会計税理 士系、観光・地域経営系)		○ 食物栄養科学部 (食物栄養学系、発酵食 品学系)
私立大学	立命館アジア太平洋大 学	別府市	○ アジア太平洋学部 (環境・開発系、観光学 系、国際関係系、文化・社 会・メディア系) 国際経営学部 (会計・ファイナンス系、 マーケティング系、経営戦 略と組織系、イノベーショ ン・経済学系)		
私立大学	放送大学大分学習セン ター	別府市	○ 教育学部 (生活と福祉系、心理と教 育系、社会と産業系、人 間と文化系、情報系、自 然と環境系)		
公立短期大学	大分県立芸術文化 短期大学	大分市	○ 美術科 (美術系、デザイン系) 音楽科 (声楽系、ピアノ系、管絃 打系、音楽総合系) 国際総合学科 (国際コミュニケーション 系、観光マネジメント系、 現代キャリア系) 情報コミュニケーション 学科 (心理スポーツ系、地域ビ ジネス系)	○ 情報コミュニケーション 学科 (情報メディア系)	
私立短期大学	別府大学短期大学部	別府市	○ 初等教育科		○ 食物栄養科
私立短期大学	別府溝部学園短期大学	別府市	○ ライフデザイン総合学科 (ファッションブライダル 系、グラフィックデザイン 系、医療事務系、ビジネ ス・観光系、日本語系) 幼児教育学科 介護福祉学科		○ 食物栄養学科 (保育健康系、医事健康 系、温泉コンシェルジュ 系)
私立短期大学	大分短期大学	大分市			○ 園芸科
私立短期大学	東九州短期大学	中津市	○ 幼児教育学科		
国立高専	大分工業高等専門学校	大分市		○ 工学分野 (機械工学系、電気電子 工学系、情報工学系、都 市・環境工学系)	

(3) 大分県の高等教育の現状及び課題

基本構想編で掲げた大分県の高等教育の現状及び課題は、大分県長期総合計画等に基づく現状と課題の再確認に基づき設定しています。以下のその詳細を記します。

<大分県長期総合計画 安心・活力・発展プラン2015> (平成27年12月策定)

『発展』

1 生涯にわたる力と意欲を高める「教育県大分」の創造

(5) 「知(地)の拠点」としての大学等との連携

の項目において、地域の高等教育機関の現状と課題が以下の通りまとめられています。

○現状と課題

- ・ 大学等高等教育機関は「知(地)の拠点」として、学生の確保や生涯学習の提供、グローバル人材の育成、自治体や企業等との連携など地域への貢献が期待されています。
- ・ 県内の研究・教育振興の中心的役割を担いつつ、地域に密着したカリキュラムや留学生の活用など、それぞれの大学の特色を生かすことが求められています。

本計画では、この現状と課題を共有していることから、本現状と課題に関連する資料をもとに現状と課題の再確認を行います。

○大分県の人口の現状分析

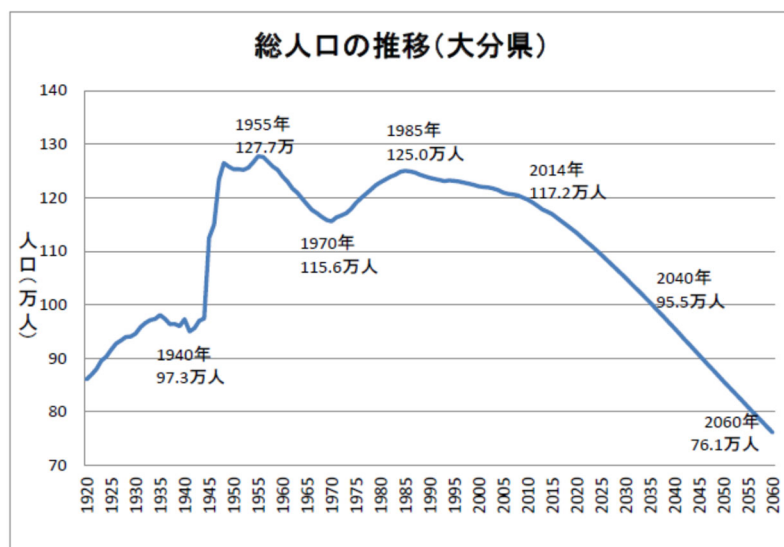
(「 」部及び図は「大分県人口ビジョン」より抜粋。一部最新のデータで更新)

(1) 総人口の推移と将来予測

「大分県の人口は、1955(昭和30)年に約128万人のピークに達した後、高度経済成長期には、大都市圏への労働力流出によって減少しました。1970(昭和45)年からは、大分地区の新産業都市指定による企業誘致の進展等を背景として1985(昭和60)年までは上昇に転じたものの、その後は緩やかな減少が続いており、」2015(平成27)年現在で約116.6万人(国勢調査)となっています。

「社人研推計では、今後人口減少はさらに加速し、2040(平成52)年には約96万人にまで減少するとされています。

さらに、この社人研推計をもとに本県独自で2060(平成72)年までの人口を推計すると、76万人程度になると見込まれます。」



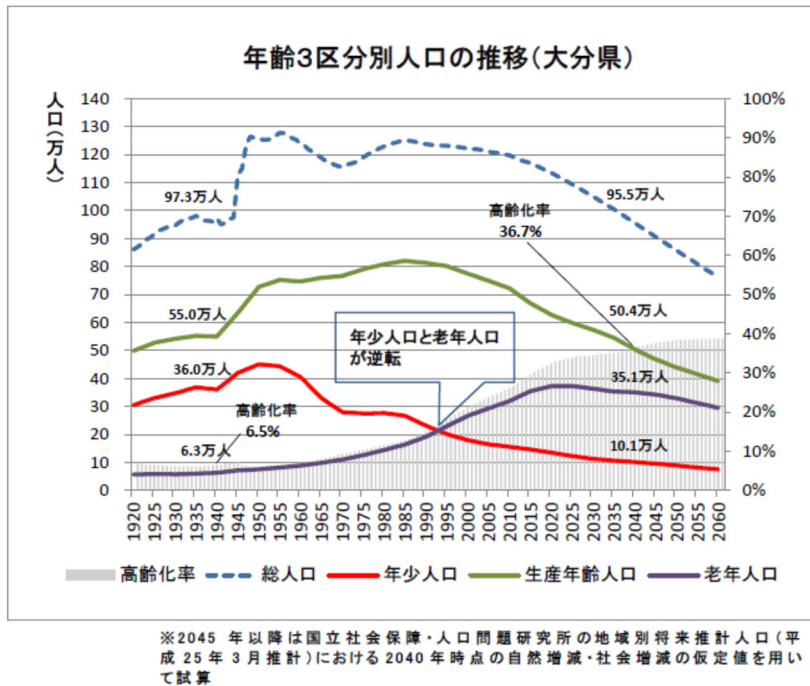
※2045年以降は国立社会保障・人口問題研究所の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)における2040年時点の自然増減・社会増減の仮定値を用いて試算

(2) 年齢3区分別人口の推移と将来予測

「社人研推計では、2040(平成52)年の大分県の人口は約96万人まで減少するとされています。これは1940(昭和15)年の人口約97万人とほぼ同程度ですが、年齢区分別人口で比較してみると、年少人口(15歳未満)が1940年の約36万人に対し、2040年は約10万人と大きく減少する一方で、老年人口(65歳以上)は1940年の約6万人から、2040年は約35万人と大幅に増加しています。このため高齢化率(人口全体に対する老年人口の割合)も、1940年が約6.5%であったのに対し、2040年は約36.7%と、大きく増加する見込みです。

さらに総人口と同様に本県独自で推計すると、2060(平成72)年の年少人口は約8万人、老年人口は約29万人、高齢化率は38.8%となると見込まれます。」

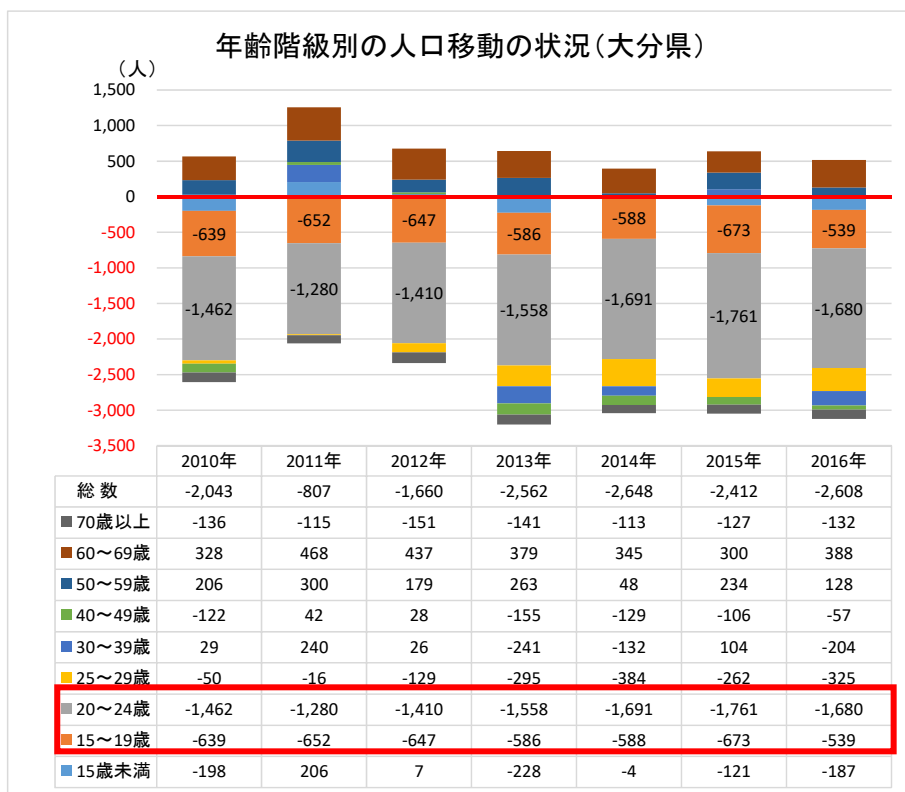
また、2015(平成27)年の国勢調査によると、大分県の高齢化率は30.4%となっており、全国10位の高さで、九州各県で唯一3割を越えています。年少人口割合は12.7%と全国平均の12.6%をわずかに上回っているが、九州各県の中では最も低くなっています。以上のように、大分県は九州で最も少子高齢化が進んでいる県であり、少子高齢化に起因する多様な課題を抱えています。



(3) 年齢階級別の人口移動の状況

「近年の年齢階級別の人口移動を見ると、転出超過数に占める15～24歳の割合が高くなっており、特に20歳～24歳の転出が顕著となっています。」

2016(平成28)年の県外転出者総数20,460人のうち、15～24歳の転出が6,487人と全体の約3割を占めていますが、中でも大学等へ進学する年齢である18歳(1,103人)と、新規大卒者が就職する年齢である22歳(1,403人)に転出者が集中しています。



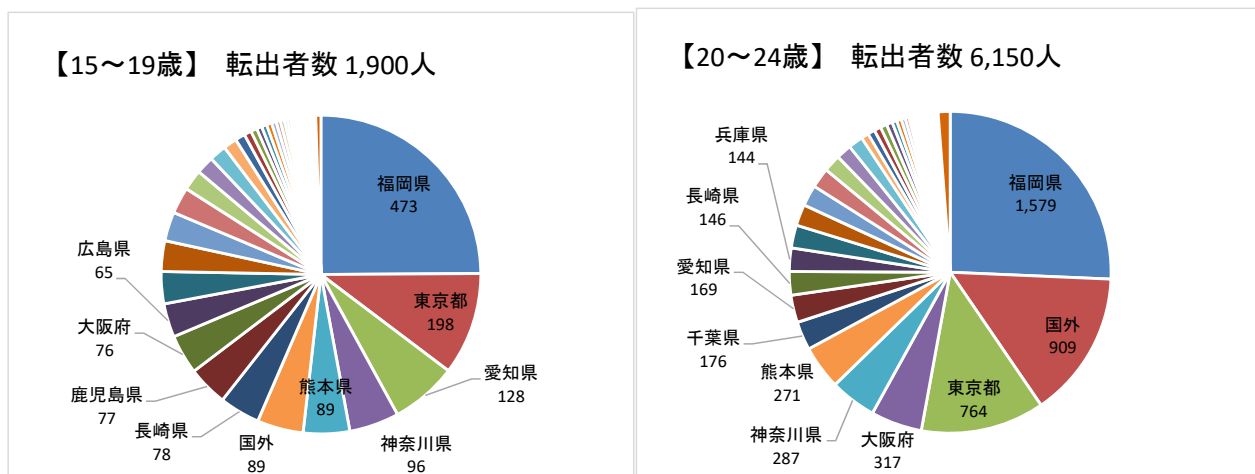
資料：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

(4) 若年者の転出先内訳（県外）

「若者の転出先をさらに詳しく見てみると、15～19歳、20～24歳共に福岡県への流出が全体の4分の1を占めています。

なお、大分県の特徴として、20～24歳の年齢層で、福岡県の次に「国外」に転出する若者が多くなっています。これは、立命館アジア太平洋大学等の海外留学生が卒業後に帰国することに起因するものです。」

若年者の転出先内訳（県外） (2015年10月1日～2016年9月30日)



資料：大分県人口推計年報【平成28年版】

以上のことから大学等高等教育機関は、学生の確保などによる若年者の人口流出抑制への貢献が期待されています。

○将来展望に必要な調査分析

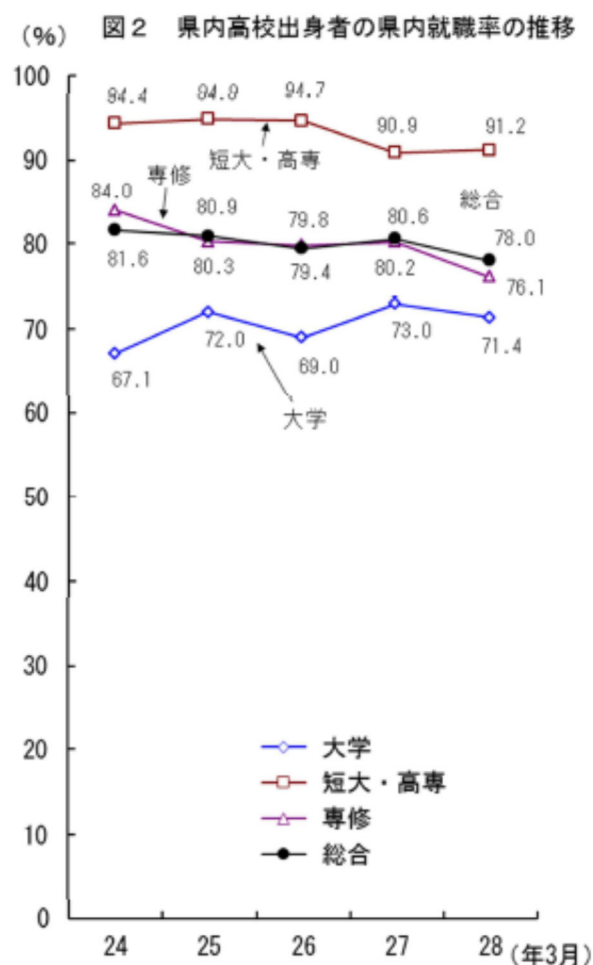
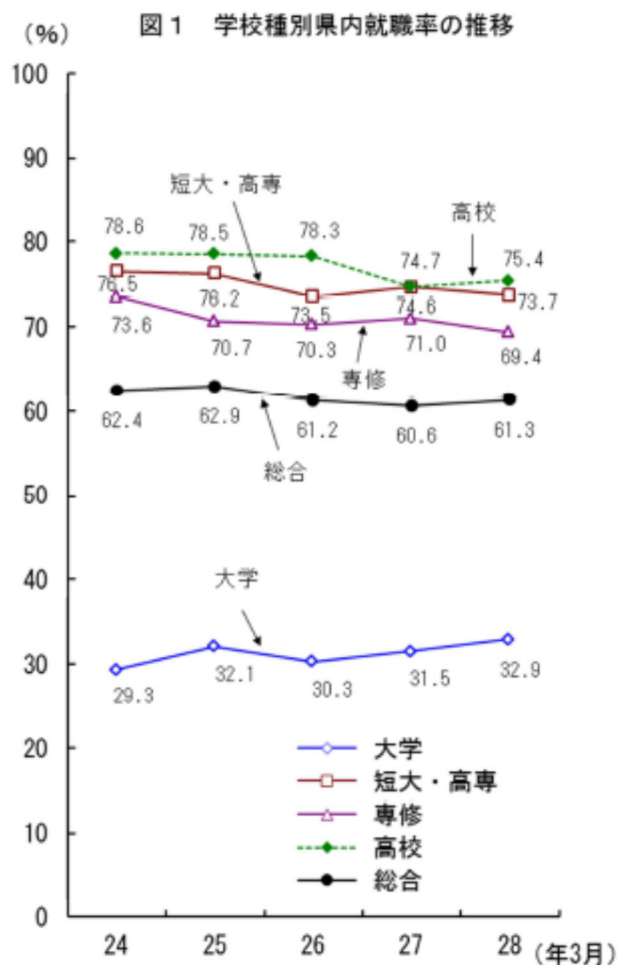
(「 」部及び図は「大分県人口ビジョン」より抜粋。)

(1) 県内就職率の動向

県内就職率は、全体の総合では6割程度で推移しています。学校種別で見ると、大学卒業者は3割程度と低くなっていますが、近年は増加傾向にあります。短大・高専は7割強を推移しており、県内就職の傾向が高くなっています。

県内高校出身者に限ると、大学卒業者は7割程度、短大・高専は9割強と県内就職に大きく貢献していますが、全体的には横ばい傾向です。

人口減少の観点からは、今後は、県外出身者の県内就職を促すとともに、県内進学・県内就職を促すことが重要です。



資料：平成28年度大分県新規学卒者実態調査

(2) 県内総生産の動向

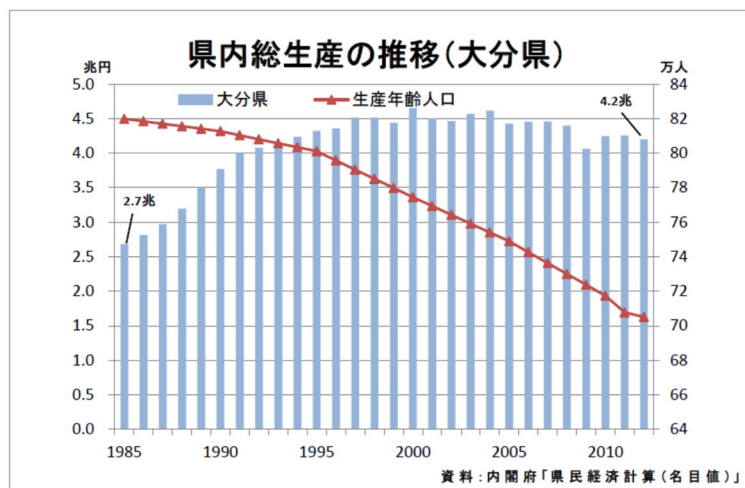
「生産年齢人口は1985（昭和60）年に82万人とピークを迎えましたが、当時の県内総生産額は、およそ2.7兆円でした。その後、2012年（平成24）年には70万人まで生産年齢人口は減少しましたが、逆に県内総生産額は4.2兆円と、大きく増加しています。

今後は、生産年齢人口の減少は加速することが見込まれているため、あらゆる面からの産業振興を図り、県内総生産の向上をめざす必要があります。

具体的には、中小企業の振興や商業・サービス産業の振興と観光・ツーリズムの展開、創業・起業の支援、企業誘致と産業集積のさらなる深化、新エネルギー産業などの新産業の展開を図ることが重要です。

併せて、芸術文化やスポーツなどを活用した地域活性化策を進める事も大切です。」

以上の大分県の方針に対し、県内の高等教育機関の学術分野に照らすと、産学官が連携して、産業の振興、地域活性化などに対応することも重要であり、大学等が持つ研究開発機能やシンクタンク機能、さらには学生の活力が求められています。



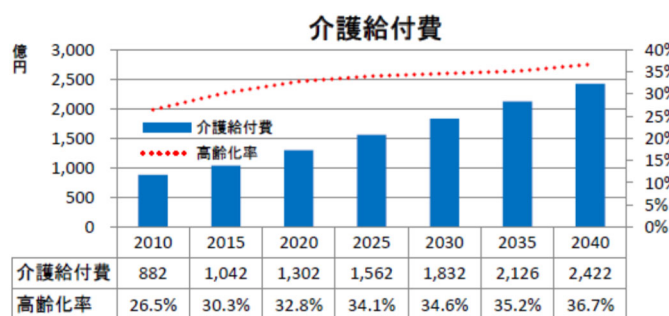
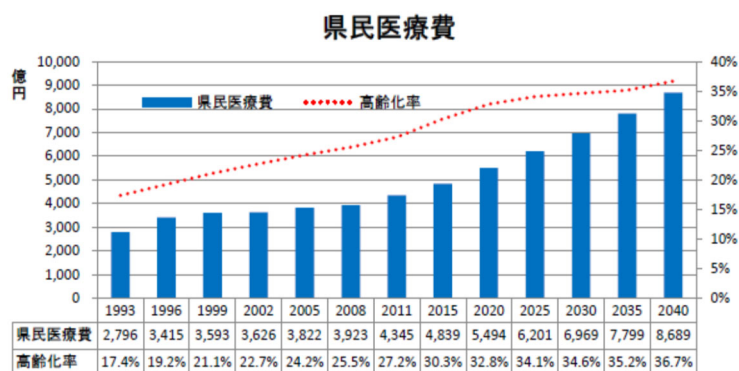
(3) 県民医療費・介護給付費の将来推計

「県民医療費は、増加を続けており、2011（平成 23）年で 4,345 億円となっています。今後は、人口が減少するにもかかわらず、高齢化率の高まりにより、2040（平成 52）年には 2011 年との比較で約 2.0 倍まで増加することが見込まれています。

また、介護給付費は、2010（平成 22）年で 882 億円となっていますが、2040（平成 52）年には 2010 年との比較で約 2.7 倍まで増加することが見込まれています。

今後は、これらの経費の抑制を図るとともに、住み慣れた地域で健康で自立した日常生活を営んでいけるよう、健康寿命の延伸や地域包括ケアシステムの構築を進めていくことが重要となります。」

以上の大分県の方針に対し、県内の高等教育機関の学術分野に照らすと、産学官が連携して、医療・福祉の充実などに対応することも重要であり、大学等が持つ研究開発機能やシンクタンク機能、さらには学生の活力が求められています。



資料：大分県中長期県勢シミュレーション

以上の通り、“おおいた”地域の高等教育の現状と課題の再確認ができたことから、本計画における現状と課題を以下の通り設定します。

○現状と課題

- ・ 大学等高等教育機関は「知（地）の拠点」として、学生の確保や生涯学習の提供、グローバル人材の育成、自治体や企業等との連携など地域への貢献が期待されています。
- ・ 県内の研究・教育振興の中心的役割を担いつつ、地域に密着したカリキュラムなど、それぞれの大学等の特色を生かすことが求められています。

この現状と課題をより具体的に表したものが、下記の課題項目であり、本計画の具体的な設定課題としている。

- ① 県内自治体・産業界等と大学等の連携の促進
- ② 新しい学力観である「学力の3要素」の定着を図る高大接続の実質化
- ③ 高等教育機関進学率の向上
- ④ 学生の確保等による若年者の人口流出抑制
- ⑤ 産学官連携による地域創生人材の育成と質保証
- ⑥ 大学等連携による地域に密着した科目の充実
- ⑦ 県内短期大学進学率の高さに応える短期大学の振興
- ⑧ 人口減少の観点からの県内就職の促進
- ⑨ 多様なニーズに応える社会人の学び直し機会（リカレント教育）の提供
- ⑩ 産学官連携による産業、福祉、医療等、様々な分野の課題解決による地域活性化の推進

なお、大分県長期総合計画「安心・活力・発展プラン2015」の中から、「まち・ひと・しごと創生」に関連する施策を集中的・重点的に推進するための計画として「まち・ひと・しごと創生 大分県総合戦略」が策定されており、本計画の策定と多くが連動することから、以下にその内容を記します。

＜まち・ひと・しごと創生 大分県総合戦略＞（平成29年3月改定）

基本目標

少子高齢化、人口減少社会に対応するため、子どもを生き育てやすい環境づくりなどを通じた自然増と、仕事づくりや快適な暮らしの環境づくり、U I J ターンなどを通じた社会増の両面から対策を進めます。

また、生産年齢人口の減少や過疎化、小規模集落の増加等が進むことから、高齢者や女性など多様な人材の社会参加を一層促すとともに、集落機能の維持・強化や、特徴ある地域資源による地域活性化を図ります。

このような観点から、4つの基本目標を設定します。

I 人を大事にし、人を育てる

子どもを生き育てやすい環境づくりや健康長寿の社会づくりなど、自然増のための環境を整えます。また、高齢者や障がい者、女性など、多様な人材の活躍を促進します。併せて、大分県の将来の担い手となる子どもの教育を充実します。

II 仕事をつくり、仕事を呼ぶ

地域密着の産業である農林水産業や商工業、観光・ツーリズムなど、様々な分野に魅力ある仕事の間を創出します。

III 地域を守り、地域を活性化する

人口減少の中で、住み慣れた地域に住み続けたいという住民の思いを叶える地域づくりを進めると共に、特徴ある地域資源を生かした取組やU I J ターン促進などにより地域活性化を図ります。

IV 基盤を整え、発展を支える

広域交通網の整備など地域間競争の基盤整備を進めるとともに、防災など地域の安全性・強靭性を高めます。

I 人を大事にし、人を育てる

3 大分県の将来の担い手となる子どもの教育の充実

（4）「知（地）の拠点」としての大学等との連携

の項目において、地域の高等教育機関との主な取り組みが記述されています。

①地域課題解決に向けた県内外の大学等との連携の推進

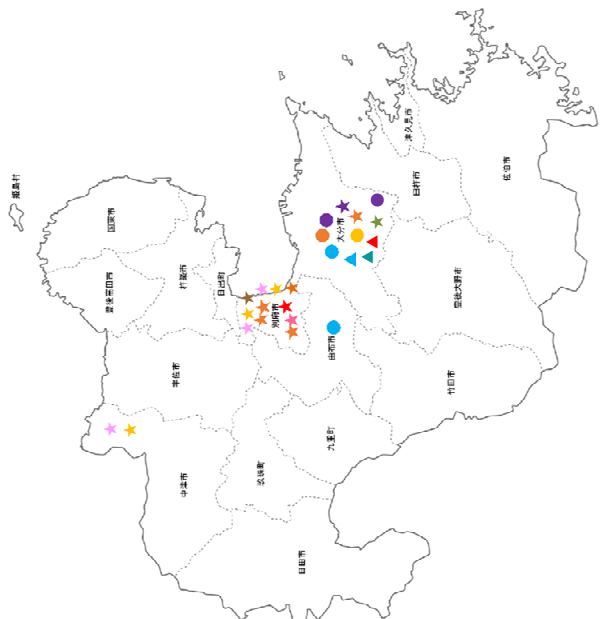
- ・ 産学官連携による教育、産業、福祉、医療など、様々な分野の課題解決への対応
- ・ 地域活性化のため、学生等が地域と協働して行うフィールドワークなどの促進
- ・ 県内企業等が求める人材育成やマッチング機会の提供、就業意識醸成セミナーの実施など、大学と行政、経済界の連携による県内就職の促進
- ・ 大学等のサテライトキャンパスなどの誘致
- ・ 大学等と行政が連携した若者などの知識・教養を深める場の提供

また、本県の高等教育機関を取り巻く将来予測、高校生の大学・短期大学・専修学校への進学者数・就職者数・割合・都道府県順位についても、課題設定においては重要な資料であることから、次ページ以降に掲載する。

大分県

● 地域産業に関する基礎データ

県庁所在地	大分市	卸売、小売(4,252) 建設(3,258) 製造(1,651)
人口	1,166,338	卸売、小売(98,622) 医療、福祉(89,686) 製造(72,728)
有効求人倍率	保安(2.88) 建設・探掘(2.34) サービス(1.90)	製造(43,022) 卸売、小売(21,319) 医療、福祉(6,393)
一人当たり 雇用者所得 (百万円)	一次金属(21.83) 電気・ガス・水道 (20.39) 公務(11.52)	サービス(9,353) 不動産(4,992) 公務(4,636)
労働生産性 (千円/人)	電気・ガス・熱供給・水 道(14,745) 金融、保険(5,673) 製造(4,923)	



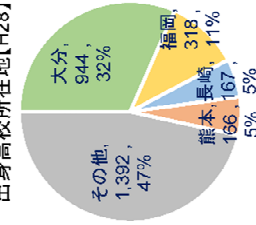
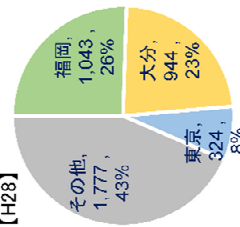
● 高等教育に関する基礎データ

数値補正後

18歳人口【H28】	11,174
高校卒業者数【H28】	10,343
大学進学者数【H28】	4,088
大学進学率【H28】	36.6%
大学進学率(国公私別)【H28】	12.4%
短大進学率【H28】	8.1%
専門学校進学率(現役)【H28】	20.5%
大学数【H28】	5
大学数(国公私別)【H28】	1
入学定員【H28】	3,400
入学定員(国公私別)【H28】	1,070
大学入学者数【H28】	2,987
県外から流入【H28】	2,043
県内から流出【H28】	3,144
流出入差(流入-流出)【H28】	-1,101
自県進学率【H28】	23.1%
大学進学者数推計【H45】	3,546
大学入学者数推計【H45】	2,447
入学定員充足率推計【H45】	72.0%

数値補正後

- 県内高校生の大学進学生【H28】
- 県内大学入学者の出身高校所在地【H28】



● 大学学部に関する基礎データ

(平成28年度のデータ)

【国】大分大学(定員合計:1,070)	135	大分市
教育学部	305	大分市
経済学部	160	由布市
医学部	370	大分市
工学部	100	大分市
福祉健康科学部		
【公】大分県立看護科学大学(定員合計:80)	80	大分市
看護学部		
【私】日本文理大学(定員合計:560)	260	大分市
工学部	300	大分市
経営経済学部		
【私】別府大学(定員合計:570)	270	別府市
文学部	120	別府市
食物栄養科学部	100	別府市
国際経営学部		
【私】立命館アジア太平洋大学(定員合計:1,200)	600	別府市
アジア太平洋学部	600	別府市
国際経営学部		

短期大学		
【公】大分県立芸術文化短期大学	▲	大分市
【私】別府大学短期大学部	★	別府市
【私】別府清部学園短期大学	★	別府市
【私】大分短期大学	★	大分市
【私】東九州短期大学	★	中津市
高等専門学校		
【国】大分工業高等専門学校	●	大分市



出典: 文部科学省 大学分科会(第139回)・将来構想部会
(第9期～)(第10回)合同会議 配付資料
「高等教育の将来像に関する都道府県別基礎データ
(数値補正後)」の大分県ページに追記

平成29年3月卒 都道府県別大学・短期大学・専修学校への進学者数・就職者数、割合、順位(合計・男女別)

No	都道府県	卒業生数			大学等進学計									大 学 (学 部)									短 期 大 学 (本 科)									専 修 学 校 (専 門 課 程)									就 職 者								
		計	男	女	計	割合	順位	男	割合	順位	女	割合	順位	計	割合	順位	男	割合	順位	女	割合	順位	計	割合	順位	男	割合	順位	女	割合	順位	計	割合	順位	男	割合	順位	女	割合	順位									
1	北海道	42,484	21,388	21,096	18,902	44.5%	40	9,549	44.6%	30	9,353	44.3%	46	16,564	39.0%	32	9,241	43.2%	30	7,323	34.7%	44	2,214	5.2%	26	272	1.3%	16	1,942	9.2%	28	9,310	21.9%	4	3,477	16.3%	7	5,833	27.6%	4	10,078	23.7%	15	5,756	26.9%	24	4,322	20.5%	11
2	青森	12,094	6,053	6,041	5,389	44.6%	39	2,501	41.3%	38	2,888	47.8%	43	4,581	37.9%	38	2,375	39.2%	38	2,206	36.5%	36	672	5.6%	20	73	1.2%	18	599	9.9%	21	1,827	15.1%	36	664	11.0%	36	1,163	19.3%	35	3,869	32.0%	2	2,274	37.6%	3	1,595	26.4%	1
3	岩手	11,558	5,896	5,662	5,036	43.6%	43	2,371	40.2%	39	2,665	47.1%	44	4,375	37.9%	39	2,248	38.1%	41	2,127	37.6%	31	565	4.9%	31	99	1.7%	7	466	8.2%	34	2,013	17.4%	18	832	14.1%	14	1,181	20.9%	24	3,484	30.1%	5	2,117	35.9%	6	1,367	24.1%	3
4	宮城	19,806	9,972	9,834	9,755	49.3%	27	4,793	48.1%	24	4,962	50.5%	33	8,902	44.9%	26	4,667	46.8%	23	4,235	43.1%	26	799	4.0%	42	110	1.1%	21	689	7.0%	43	3,129	15.8%	33	1,233	12.4%	28	1,896	19.3%	34	4,647	23.5%	16	2,638	26.5%	26	2,009	20.4%	12
5	秋田	8,524	4,283	4,241	3,858	45.3%	37	1,792	41.8%	37	2,066	48.7%	38	3,244	38.1%	36	1,711	39.9%	37	1,533	36.1%	40	601	7.1%	9	71	1.7%	9	530	12.5%	7	1,446	17.0%	24	529	12.4%	29	917	21.6%	20	2,593	30.4%	3	1,602	37.4%	4	991	23.4%	4
6	山形	10,073	5,105	4,968	4,566	45.3%	35	2,169	42.5%	36	2,397	48.2%	42	3,876	38.5%	34	2,063	40.4%	35	1,813	36.5%	37	628	6.2%	11	85	1.7%	8	543	10.9%	14	1,859	18.5%	12	695	13.6%	18	1,164	23.4%	7	2,891	28.7%	8	1,750	34.3%	8	1,141	23.0%	6
7	福島	17,607	8,951	8,656	8,039	45.7%	34	3,809	42.6%	35	4,230	48.9%	36	6,942	39.4%	31	3,723	41.6%	32	3,219	37.2%	34	992	5.6%	18	59	0.7%	34	933	10.8%	16	3,314	18.8%	10	1,344	15.0%	12	1,970	22.8%	12	4,988	28.3%	9	3,025	33.8%	9	1,963	22.7%	7
8	茨城	25,284	12,940	12,344	12,784	50.6%	26	6,411	49.5%	20	6,373	51.6%	29	11,914	47.1%	19	6,368	49.2%	18	5,546	44.9%	21	786	3.1%	46	31	0.2%	47	755	6.1%	46	4,573	18.1%	13	1,718	13.3%	21	2,855	23.1%	9	5,464	21.6%	28	3,270	25.3%	28	2,194	17.8%	20
9	栃木	17,493	8,998	8,495	9,066	51.8%	22	4,467	49.6%	19	4,599	54.1%	24	8,263	47.2%	18	4,413	49.0%	19	3,850	45.3%	18	799	4.6%	35	53	0.6%	38	746	8.8%	31	3,045	17.4%	19	1,160	12.9%	26	1,885	22.2%	15	3,953	22.6%	24	2,478	27.5%	22	1,475	17.4%	24
10	群馬	17,056	8,534	8,522	8,905	52.2%	21	4,198	49.2%	21	4,707	55.2%	21	7,996	46.9%	21	4,107	48.1%	20	3,889	45.6%	16	905	5.3%	22	89	1.0%	24	816	9.6%	25	3,185	18.7%	11	1,291	15.1%	11	1,894	22.2%	14	3,367	19.7%	30	2,049	24.0%	31	1,318	15.5%	30
11	埼玉	57,262	29,449	27,813	32,989	57.6%	9	16,709	56.7%	7	16,280	58.5%	10	30,311	52.9%	8	16,540	56.2%	7	13,771	49.5%	11	2,542	4.4%	36	130	0.4%	45	2,412	8.7%	32	9,544	16.7%	27	3,837	13.0%	23	5,707	20.5%	25	8,073	14.1%	40	4,472	15.2%	42	3,601	12.9%	38
12	千葉	49,330	24,958	24,372	27,466	55.7%	14	13,649	54.7%	11	13,817	56.7%	17	25,594	51.9%	10	13,507	54.1%	10	12,087	49.6%	10	1,800	3.6%	45	124	0.5%	43	1,676	6.9%	44	8,766	17.8%	14	3,383	13.6%	20	5,383	22.1%	17	6,810	13.8%	42	3,905	15.6%	41	2,905	11.9%	39
13	東京	102,326	49,993	52,333	67,455	65.9%	2	30,859	61.7%	2	36,596	69.9%	1	65,028	63.5%	1	30,679	61.4%	2	34,349	65.6%	1	2,340	2.3%	47	156	0.3%	46	2,184	4.2%	47	12,040	11.8%	47	4,977	10.0%	44	7,063	13.5%	47	6,849	6.7%	47	4,128	8.3%	47	2,721	5.2%	47
14	神奈川	66,400	33,430	32,970	40,703	61.3%	3	20,128	60.2%	3	20,575	62.4%	6	37,941	57.1%	3	19,931	59.6%	3	18,010	54.6%	5	2,703	4.1%	41	157	0.5%	44	2,546	7.7%	39	10,534	15.9%	32	3,983	11.9%	32	6,551	19.9%	28	5,685	8.6%	46	3,430	10.3%	46	2,255	6.8%	45
15	新潟	19,427	9,775	9,652	8,799	45.3%	36	4,413	45.1%	29	4,386	45.4%	45	7,721	39.7%	30	4,227	43.2%	29	3,494	36.2%	39	919	4.7%	34	137	1.4%	14	782	8.1%	36	5,153	26.5%	1	1,933	19.8%	2	3,220	33.4%	1	3,887	20.0%	29	2,405	24.6%	29	1,482	15.4%	31
16	富山	9,115	4,574	4,541	4,760	52.2%	20	2,212	48.4%	23	2,548	56.1%	19	4,047	44.4%	27	2,113	46.2%	25	1,934	42.6%	27	645	7.1%	8	85	1.9%	5	560	12.3%	9	1,550	17.0%	23	512	11.2%	35	1,038	22.9%	10	2,034	22.3%	25	1,321	28.9%	18	713	15.7%	28
17	石川	10,550	5,425	5,125	5,739	54.4%	15	2,768	51.0%	17	2,971	58.0%	13	4,953	46.9%	20	2,708	49.9%	17	2,245	43.8%	23	751	7.1%	7	59	1.1%	22	692	13.5%	4	1,428	13.5%	43	555	10.2%	43	873	17.0%	42	2,345	22.2%	26	1,441	26.6%	25	904	17.6%	23
18	福井	7,564	3,797	3,767	4,227	55.9%	13	2,044	53.8%	13	2,183	58.0%	14	3,758	49.7%	13	2,022	53.3%	12	1,736	46.1%	14	422	5.6%	19	19	0.5%	42	403	10.7%	17	1,121	14.8%	39	410	10.8%	38	711	18.9%	36	1,739	23.0%	21	1,023	26.9%	23	716	19.0%	17
19	山梨	8,229	4,518	3,711	4,685	56.9%	10	2,552	56.5%	8	2,133	57.5%	15	4,255	51.7%	11	2,485	55.0%	8	1,770	47.7%	12	425	5.2%	28	66	1.5%	12	359	9.7%	23	1,441	17.5%	17	626	13.9%	16	815	22.0%	18	1,372	16.7%	38	864	19.1%	38	508	13.7%	34
20	長野	18,898	9,642	9,256	9,094	48.1%	29	4,148	43.0%	33	4,946	53.4%	26	7,341	38.8%	33	3,947	40.9%	33	3,394	36.7%	35	1,743	9.2%	1	199	2.1%	4	1,544	16.7%	1	3,944	20.9%	5	1,790	18.6%	3	2,154	23.3%	8	3,505	18.5%	33	2,161	22.4%	34	1,344	14.5%	32
21	岐阜	18,379	9,257	9,122	10,279	55.9%	12	4,952	53.5%	14	5,327	58.4%	11	8,959	48.7%	14	4,778	51.6%	15	4,181	45.8%	15	1,316	7.2%	5	172	1.9%	6	1,144	12.5%	6	2,419	13.2%	44	879	9.5%	45	1,540	16.9%	43	4,300	23.4%	17	2,624	28.3%	20	1,676	18.4%	19
22	静岡	32,825	16,886	15,939	17,364	52.9%	18	8,827	52.3%	15	8,537	53.6%	25	15,941	48.6%	15	8,719	51.6%	14	7,222	45.3%	19	1,401	4.3%	37	92	0.5%	41	1,309	8.2%	35	5,640	17.2%	22	2,304	13.6%	17	3,336	20.9%	23	7,277	22.2%	27	4,270	25.3%	27	3,007	18.9%	18
23	愛知	65,204	32,451	32,753	37,728	57.9%	8	18,051	55.6%	9	19,677	60.1%	8	34,813	53.4%	7	17,758	54.7%	9	17,055	52.1%	6	2,733	4.2%	38	235	0.7%	30	2,498	7.6%	41	8,212	12.6%	45	2,765	8.5%	47	5,447	16.6%	44	12,696	19.5%	31	7,530	23.2%	33	5,166	15.8%	27
24	三重	16,212	8,187	8,025	8,252	50.9%	24	3,976	48.6%	22	4,276	53.3%	27	7,384	45.5%	24	3,872	47.3%	22	3,512	43.8%	24	813	5.0%	29	89	1.1%	23	724	9.0%	30	2,431	15.0%	38	857	10.5%	42	1,574	19.6%	31	4,349	26.8%	10	2,658	32.5%	12	1,691	21.1%	10
25	滋賀	12,884	6,608	6,276	7,206	55.9%	11	3,565	53.9%	12	3,641	58.0%	12	6,405	49.7%	12	3,492	52.8%	13	2,913	46.4%	13	799	6.2%	12	73	1.1%	20	726	11.6%	10	2,171	16.9%	25	927	14.0%	15	1,244	19.8%	29	2,248	17.4%	36	1,361	20.6%	37	887	14.1%	33
26	京都	23,480	11,573	11,907	15,547	66.2%	1	7,400	63.9%	1	8,147	68.4%	2	14,256	60.7%	2	7,239	62.6%	1	7,017	58.9%	2	1,243	5.3%	23	156	1.3%	15	1,087	9.1%	29	3,217	13.7%	42	1,244	10.7%	39	1,973	16.6%	45	2,052	8.7%	45	1,272	11.0%	45	780	6.6%	46
27	大阪	75,858	37,344	38,514	45,292	59.7%	6	21,496	57.6%	5	23,796	61.8%	7	40,791	53.8%	6	21,146	56.6%	5	19,645	51.0%	7	4,367	5.8%	16	322	0.9%	27	4,045	10.5%	18	11,410	15.0%	37	4,212	11.3%	34	7,198	18.7%	38	8,932	11.8%	43	5,441	14.6%	43	3,491	9.1%	43
28	兵庫	47,201	23,335	23,866	28,651	60.7%	5	13,408	57.5%	6	15,243	63.9%	3	26,295	55.7%	5	13,144	56.3%	6	13,151	55.1%	4	2,267	4.8%	33	260	1.1%	19	2,007	8.4%																			